

美術教育講座 大山 明彦 教授



古代建築にみる彩色文様の記録保存

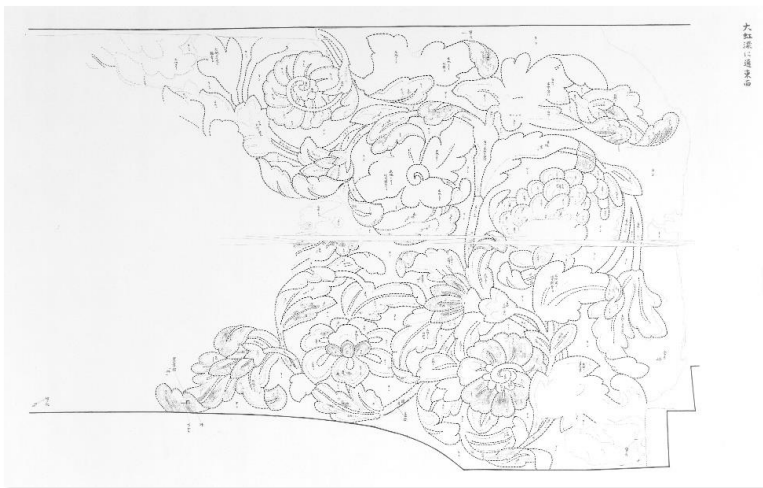


キーワード 絵画記録保存/ 彩色文様/ 伝統技術の伝承/ 文化財の教育普及/

どのような研究をなぜ行っているか

本研究は、伝統的な絵画の模写技術を生かした文化財の記録保存に資するものです。

図は、国宝『唐招提寺金堂』にみる彩色文様の現状記録図と彩色復元の一例（奈良県教育委員会事務局文化財保存事務所依頼）です。



左：同金堂内大虹梁側面にみる宝相華文の現状記録図



右：同支輪部にみる原寸大彩色復元（いずれも律宗総本山 唐招提寺蔵）

研究成果をどのように活用し、どのような貢献ができるか

私の研究は、我が国の文化財の内、主に奈良時代創建の古代建築にみる彩色文様を対象として、優れた先人達によって培われてきた伝統的な技術を用いて、また奈良文化財研究所等による最新の科学的色料分析調査の結果を踏まえた原寸大の復元模写図（立体模型を含む）の制作を行っています。

そしてその成果を、文化財の保存・修復や、教育普及に資する目的を持って広く一般に公開しています。

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

○展示

- ：『国宝 鑑真和上展』奈良国立博物館（2009年4月～5月）
- ：『唐招提寺金堂荘厳展』多摩美術大学美術館（2010年12月～2011年1月）
- ：『特別展 波濤を越えて-鑑真和上と美濃の僧・栄叡-』岐阜市歴史博物館（2021年10月～11月）
- ：『天平の匠に挑む古代の知恵vs現代の技術』公益財団法人竹中大工道具館（2021年8月～12月）

○VR映像

- ：『唐招提寺-金堂の技と鑑真和上に捧ぐ御影堂の美-』凸版印刷株式会社・TBS制作（2010年：東京国立博物館内資料館 TMN&TOPPANミュージアムシアター上映）他